

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「愚かさ」に徹する

—コリント人への手紙第一1章18節—

福音伝道教団
今市キリスト教会牧師
聖書宣教会評議員

斉藤 哲哉



男性もエステを普通にやるような時代です。眉とかネイルをきれいにしている人がけっこういます。2000年前の聖書の時代にもエステをし、見かけを良くして弁論していたことをブルース・ウィンター師の特別講演でお伺いしました。弁論する人々はすね毛を剃って無駄毛の手入れをして、体を鍛え威風堂々と語ったとのこと。2000年前にも見かけを良くして語っていたのです。では私たちがイエス・キリストを伝える伝え方はどうあるべきでしょうか。

それは、愚かさ「に徹する」ということです。

私たちは十字架につけられたイエス・キリストのみを伝えるのです。使徒パウロは当時第一の学者、ガマリエルに律法を学んだ律法学者です。議員でもあり学問と弁論術にたけていました。そのようなエリートのパウロがすぐれたことば、すぐれた知恵を用いるのは普通のことでした。十字架のイエス・キリストのみを語ることのほうが難しかったでしょう。2:2に「何も知らないことに決心した」と言っています。これは「十字架のキリストの他、何ものも親しく知らないことをよしとした」という意味です。キリストだけとなるために、どれだけのものを捨てたのでしょうか。

1:18に「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても」とあります。「愚か」とは新約聖書中40回出てきますが、そのうち18回がコリント人への手紙に出てきます。半分近くです。それほど使徒パウロは愚かなように見えても福音に徹することがキリスト者の在り方だとコリントの人々に語っているのです。私たちは賢くなれ、損をするなど教えられてきました。現代、科学や医学が進み、テクノロジーが発展して生活も豊かになりましたが、それで幸せになったかというところでもない気がいたします。いや昔より人の情や愛情が薄くなり生活しづらいように思いま

す。宣教においても賢さではなく、神の十字架のみを伝える愚かさ「に徹し、世の知者になろうとしない、損をいとわない生き方が必要です。

みことばに聞き従ってゆくのが聖書宣教会のありかたです。それは、楽な生き方ではないでしょう。しかし、私たちの救いのために貧しくなり、愚かになってくださったお方のみことばに従うのが私たちの生き方です。私は、この4月から私たちの教団の中央日本聖書学院の学院長に任命されました。今は、正規生がいない聖書学院です。超教派の神学校も大切です。また、地方伝道を担う小さな教派神学校も必要です。地域にどっしりと腰をおろして、あくまでも福音を伝え続けるこの世からみれば愚かな伝道者を養育してゆくことが大切と思うのです。神の御霊のわざ、神の御力を見たいと思ったら説得力のある知恵のことばではなく、十字架のことばに徹することです。そこに聖霊の生きたあかしがなされ、神の御力が現されるのです。「御霊と御力の現れ」の「現れ」とは「証明・証拠」の意味です。私たちがキリストを主、救い主と信じるのも御霊によるのです。人が信じるときに、御霊のみわざが現されているのです。

使徒パウロは弱く、恐れおののいているような時に十字架のキリストに頼り、聖霊のあかしがなされ、神の御力が現されるのを体験したのです。4:16で「私にならう者となってください」と使徒パウロは語ります。私たちが使徒パウロのように、福音の愚かさ「に徹する」生き方をあなたもして欲しい、と語ってまいります。

全世界に出て行って...

聖書宣教会の同窓会名簿には、現在、568名が記載されています。このうち21名は地上の生涯を全うして主のみもとにあります。卒業生、修了生、校友は、日本各地での働きのほか、世界の各地で主に仕えています。立場も奉仕地も様々ですが、海外に在住、奉職、または海外宣教の働きに専従していると思われる33名の兄弟を紹介しします。(ほかに海外留学中の兄弟もあります。)

*同窓会名簿をもとに記載しておりますが、誤りや訂正がありましたらお知らせください。

<アジア・オセアニア地域>		<北・南アメリカ地域>		蛭沼 寛行 本科37期
伊藤 仁 本科40期		安納 義人 本科14期		三浦 春寿 本科25期
斎藤 五十三 校友		李 起燮 本科40期		山田 みよ子 本科02期
T.K 本科37期		上沼 昌雄 本科12期		<ヨーロッパ地域>
T.Y 本科36期		大羽 ウエスレー 本科27期		田辺 正隆 本科04期
田口 勇新 本科19期		影山 俊興 本科04期		<アフリカ地域>
中村 孝 本科21期		黒田 朔 本科11期		清水 担 本科39期
福永 有 本科34期		西條 裕之 本科31期		清水 いずみ 本科39期
松浦 紀子 本科34期		立石 尚志 本科33期		<その他地域>
松村 隆 本科19期		立石 聖美 音科10期		安海 靖郎 本科10期
松本 健一 本科40期		中尾 邦三 本科14期		稲垣 博史 本科11期
矢田 紫野 本科40期		中田 智之 本科10期		野沢 道世 本科27期
		平湯 晴彦 本科22期		福田 崇 本科17期
		平湯 洋子 本科22期		

<アジア・オセアニア地域>

事情により削除

<北・南アメリカ地域> 中田 智之

[召し]

羽鳥明先生の南米宣教報告会に参加、重い気持ちで帰宅。あの貧しさに自分は同化出来るか、外国語が不得意な人間が...、一生宣教に当たる決意が...。高三・hi-b.a.で主イエス様を信じ一年目、1962年夏。

[準備]

「ブラジルを見てきなさい」羽鳥純二牧師。二年生・夜・週二、ポ語の会話・文法を他大学で。卒業式後一週間、南米行き「アフリカ丸」に乗る。一流旅行社が「南米内の交通機関?帰ってきたら教えて...」、一体、帰れるのか...。

[神学の準備]

「帰って、こちらで結婚を」「聖書は母国語で学ぶ」純二師の助言。神学舎卒業時「共に生きていれば宣教です」と舟喜信師の辞。

[いま70歳、生涯現役?]

同窓の清水師は「100才まで」と、北の地、相馬師は「今、開拓中」と言う。私もリオプレトへ開拓に。来年日本で支援会を再組織して下さる、お祈り感謝。「日本人伝道」を覚えてくれたブラジルに感謝。

<ヨーロッパ地域> 田辺 正隆

[奉仕内容]

1. フランクフルト日本語福音キリスト教会での伝道・牧会(市内・近郊の日本人約2700人)
2. ヨーロッパ各地の日本語教会の礼拝、修養会等の奉仕
3. ドイツを中心に、全ヨーロッパ向けの電話伝道

[祈りの課題]

昨年6月でスイスでの働きを終え、フランクフルト一本になりました。今までにない闘いを覚えています。理由は幾つかあります。

1. 月2回だった礼拝を毎週持つようになりました。しかし、月2回の礼拝が生活の中でパターン化し、毎週の礼拝に集わない。
2. 礼拝場所が変わったため、集まりにくい(教会周辺の路面電車の工事も一因です)。
3. 昨年から帰国者が多く、中心的な働きをしていた人々がいなくなった。しかし、主は祈りに応えてくださり、少しずつ上向きになってきています。スイスのように教会の基礎ができれば、本帰国する予定です。後任者を考えながら喜びと感謝をもって奉仕しています。お祈りください。

図書館便り

図書館長 津村 俊夫

目まぐるしく変化していく情報化社会の姿を垣間見て、しばしば圧倒されるような思いになります。先日、図書館のホームページを更新しましたが、ティンデル聖書学研究所（TH）のホームページには、データベースや eBook 専用のサイトがあり、常に情報が新しくなっていますので、時々、そこを訪れてみることをお勧めいたします。

また、グーグル・ブックス（Google Books）でキーワード検索（例えば、chaos creation Ugarit）をかけますと、本だけでなく学術雑誌の論文の中でそれに言及しているところ（ページ数）を見つけてくれます。以前では、本や論文を図書館で見つけたら、借り出したりコピーをして家に持ち帰り、丁寧に読むことによってようやく知るようになった情報が瞬時に手に入るのです。

最近、個人的に始めたばかりですが、Facebook の学者版とも言える Academia.edu という情報交換サイトがあります。自分が関心のあるグループ（例えば、Hebrew language）に登録して、そこに加わっている学者のページに行きますと、その人が公開している論文（pdf）や本の情報を得ることが出来ます。必要なら個人的にメールを送って公開されていない他の論文を提供していただくことが出来るでしょう。学者は、発表する前のアイデアは人に知られたくないのですが、すでに出版した本や論文は多くの人に読んでもらいたいので、喜んでシェアしてくれます。個人のブログやホームページとは違い、すでに出版された資料ですから、それなりに責任のある情報発信となっていると思います。

《近況と祈りの課題》

- 今年の卒業・修了予定者は 8 名です。うち本科生 6 名が卒業論文に取り組んでいます。締めくくりの学びの祝福、卒業・修了後の奉仕の導きをお祈りください。
- 研修生は、疲れや体調不良はあるものの、主の支えの中で学びと訓練に勤しんでいます。教職員も主の守りの中にあります。健康と働きのためにお祈りください。
- 新年度の要覧が発行され、入会願書の受付期間が始まりました。来年 2 月 4 日まで。献身者の減少が叫ばれる中、個々人にも教会にも、主のみこころが明らかにされますように。
- 冬の調整期間にも東北地方に奉仕に出かけるチームが準備しています。新年度の夏期キャラバン伝道の具体的な準備も始まっています。神を愛し、隣人を愛して、地域の教会を通して良く奉仕することができますように。
- 聖書宣教会の経済が例年よりも厳しい情勢で推移しています。諸教会のたたかひの厳しさを想いつつ祝福を祈ります。宣教会の必要も、主が、主の方法で満たしてくださいますように。

編集後記

秋の伝道活動の結実と収穫の報に、主の御名をあがめています。いのちの主、豊かな恵みの主にお仕えすることは何と幸いなことでしょう。日本の各地で、世

界中で、教会が強くされ、主の畑に働き手が加えられますように。(A)